第2部

“夢”実現プロジェクト



『自然が広がるスカイツリー』

重点プロジェクト

“夢”実現プロジェクト

「“夢”実現プロジェクト」とは

墨田区基本構想では、2035（令和17）年に向けて、本区のめざす姿を、「人がつながり　夢をカタチに墨田区」と定め、このまちで生きる一人ひとりが、夢や希望を持って未来へ進むことができ、挑戦する人をみんなで支え、応援することや、すみだに関わるすべての人が、温もりを感じられる「人と人とのつながり」に支えられ、笑顔で過ごせることなどを、まちの姿として描いています。

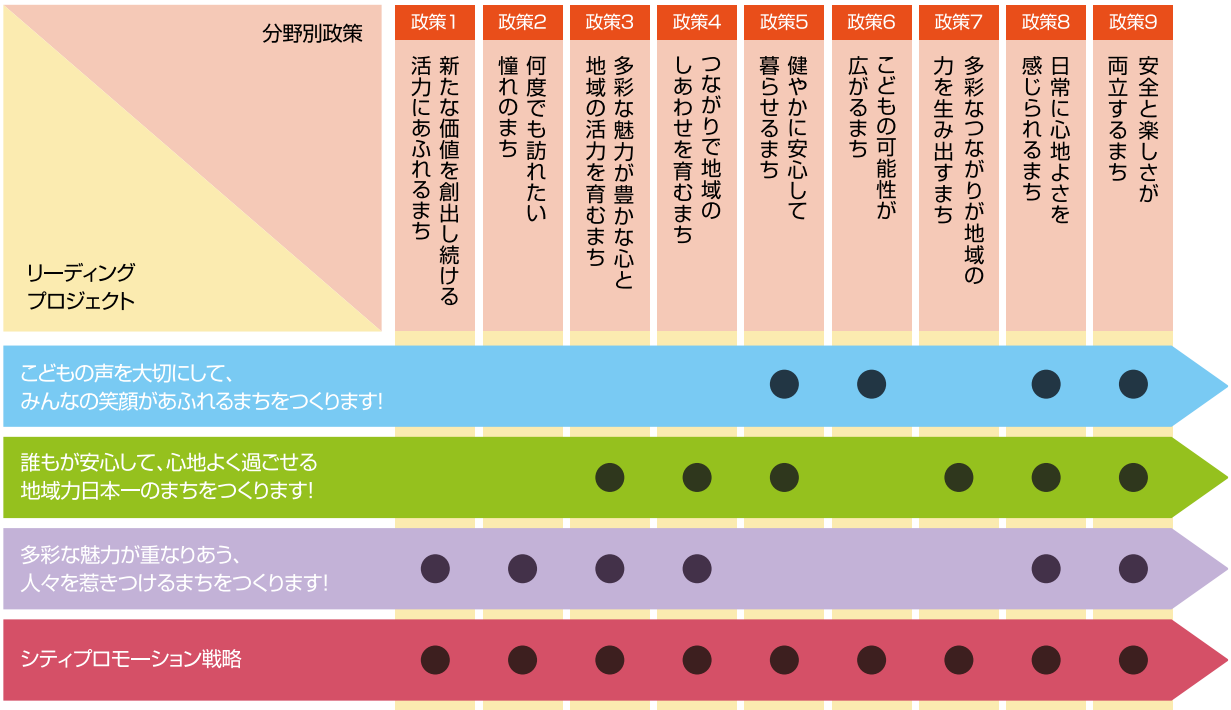
「“夢”実現プロジェクト」とは、基本構想に描くまちを実現していくため、墨田区基本計画全体をけん引する重点プロジェクト事業のことです。

すみだの未来を見据えた「まちづくり」とそれを担う「ひとづくり」を軸に、さまざまな分野の施策を横断的に関連づけ、相乗的な効果を発揮できるように、基本計画の施策体系とは別に設定しました。

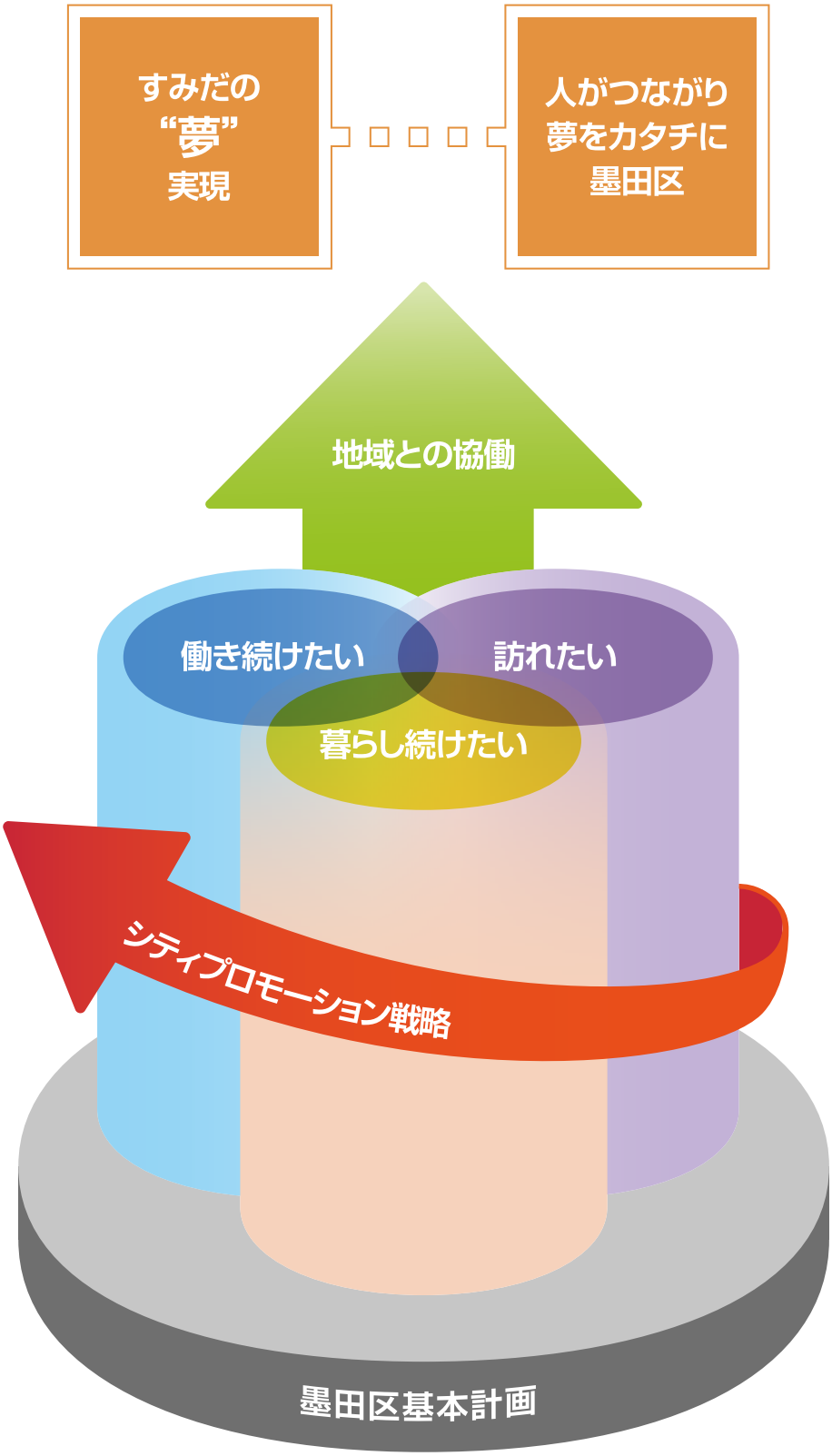
“夢”実現プロジェクトは、「暮らし続けたいまち・働き続けたいまち・訪れたいまち」の実現に向けた3つの推進プロジェクトと、それらを更に発展させていくための「シティプロモーション戦略」から構成されています。

区民や事業者、地域で活動するさまざまな団体等と行政が力を結集して、それぞれの役割を果たすことにより、「人がつながり 夢をカタチに 墨田区」というすみだの“夢”が実現したまちをめざします。

「“夢”実現プロジェクト」と分野別政策の相関図



“夢”実現プロジェクトのイメージ



「暮らし続けたい・働き続けたい・訪れたいまち」の実現

“夢”実現プロジェクト1

こどもの声を大切にして、みんなの笑顔があふれるまちをつくります!

未来像

子育て世帯のニーズに応える適切で切れ目ない子育て支援環境が整備され、家庭だけでなく、地域社会も一緒になってこどもの育ちを支えていくことで、自分らしさを大切にしながら、安心してこどもを産み育てられるまちになっています。

また、こどもの権利が守られ、意見が尊重されるとともに、こどもたちが安心して学び、遊べる環境が整うことで、元気で楽しそうな声が広がり、こどもも大人も笑顔があふれるまちになっています。

さらに、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」が実現するなかで、すみだのこどもたちは、伝統を大切にしながら、新しい発想で地域の課題に取り組むとともに、多様性を尊重し、世代を超えた交流を促進しながら、インクルーシブ(包摂的)な地域社会、持続可能な未来を創造できる人になっています。

背景

本区の人口は、若い単身世帯を中心に人口増加傾向が続く一方で、小さなこどもをもつファミリー層は転出傾向にあります。日本全体で少子高齢化が一層進行していくなかで、今後もさまざまな世代が関わりあう活気あふれたまちであり続けるためには、安心してこどもを産み育てられるとともに、「このまちでこどもを育てたい」と感じられる環境を整備し、子育て世帯が「住み続けたいまち」をつくることが必要です。

また、共働き世帯の増加や、それに伴う地域とのつながりの希薄化、スマートフォンやSNSの普及に伴うトラブルの発生など、こども・子育て・教育を取り巻く環境は複雑化しており、配慮が必要なこどもや家庭への適切な支援、安全・安心な保育・教育環境の整備、こどもが安心して過ごせる居場所づくりなど、支援ニーズは一層高まっています。

すべてのこどもが希望にあふれ健やかに育つことができるよう、こどもの声を大切にしながら、地域全体で取り組んでいくことが求められています。

推進していくプロジェクト

1 こどもの健やかな成長を支える環境づくり

子育てしやすいまちの実現に向けて、家庭の状況に応じて必要な支援がきめ細かく届くよう、妊娠期からの切れ目ない支援の充実を図るとともに、児童相談体制を強化するなど、すみだ保健子育て支援総合センターを拠点として、こどもを安心して産み育てられる環境づくりを推進します。

また、発達に配慮を必要とするこどもの増加傾向がみられており、保育と療育の更なる連携強化や、インクルーシブな保育機能の整備など、保護者の不安に寄り添い、負担を軽減する取り組みを進めていきます。

【主な取り組み】

- 産後ケア事業　【施策5−1】
- 5歳児健康相談の充実　【施策5−1】
- 東駒形保育園等複合施設整備事業　【施策6−1】
- 子育て支援サービスの充実　【施策6−1】
- こども家庭センター一体的支援事業　【施策6−2】

2 未来を切り拓く力を育てるひとづくり

こどもたち自身が将来に対して、夢や希望を持ち、目標に向かって挑戦していけるよう、心身の健全な成長を支えるとともに、自己有用感と自己肯定感の醸成や、認知能力と非認知能力の一体的な育成など、学力の向上に向けた取り組みや、安全・安心で快適性に配慮した学校施設の整備を進めます。

また、家庭の状況に左右されることなく、児童・生徒本人の特性に応じて、こどもたち一人ひとりが未来を切り拓く力を身に着けていけるよう、多様な学びの場の確保などを含め、必要な支援を充実させていきます。

【主な取り組み】

- 「こどもまんなかすみだ」推進事業　【施策6−1】
- こどもの学習・生活支援事業　【施策6−2】
- 学力向上推進事業　【施策6−3】
- 教育相談推進事業　【施策6−3】
- 学校改築・改修事業　【施策6−3】

3 安心して子育てができるまちづくり

こどもを安心して遊ばせることができるこどもの居場所づくり、交流が生まれ、憩いの場となる公園などの整備や、安全に移動できる道路環境の整備等、子育て世帯が地域のなかで安心して住み続けられる住環境づくりを進めます。

【主な取り組み】

- 児童館魅力アップ事業　【施策6−1】
- 放課後子ども教室推進事業　【施策6−3】
- 隅田公園再整備事業　【施策8−1】
- 新住宅マスタープラン推進事業　【施策9−3】
- 道路バリアフリー等整備事業　【施策9−4】

「暮らし続けたい・働き続けたい・訪れたいまち」の実現

“夢”実現プロジェクト2

誰もが安心して、心地よく過ごせる地域力日本一のまちをつくります!

未来像

地震や風水害など、大規模な災害が発生しても、区民のいのちが守られる、安全で安心なまちづくりが進んでいます。また、さまざまな活動を支えるしくみがあることで、ゆるやかなつながりが生まれ、困ったときに相談しやすく、災害の際には一丸となって助けあえる地域となり、誰もが自分らしく、安心して暮らしています。

健康づくりや趣味の活動、環境配慮の取り組みなど、多様な担い手による主体的な活動が活発なコミュニティが育まれることで、地域のなかで、互いのことを思いやりながら、生きがいを持って、いきいきと生活を送ることができる「地域力日本一」のまちになっています。

背景

2025(令和7)年の国の発表によると、マグニチュード7程度の首都直下地震の発生確率は、30年間で70%とされていることに加え、近年、気候変動に伴う突発的な豪雨や大規模な台風など、風水害の危険性が高まっており、区民のいのちと暮らしを守る備えの強化や、早期に復旧・復興できるまちづくりが求められています。

また、災害時に助けあえるよう、普段から地域のなかで関係性をつくることが重要ですが、世帯構成や働き方の変化、生活様式の多様化などにより、地域コミュニティのあり方にさまざまな変化が生じています。

多様化する地域課題に対応するため、地域コミュニティを強化・充実させ、地域力を高めていくことで、誰もが心地よく、安心して暮らし続けられるまちづくりを進めていく必要があります。

推進していくプロジェクト

1 災害に強い安全・安心なまちづくり

いざという時に相互に助けあえる地域づくりに取り組み、住民同士の連携の環境づくりや関係機関と連携した健康危機管理体制の整備など、自助・共助・公助の連携による、災害対応力を高めるとともに、建築物の不燃化や耐震化等を促進し、ソフト・ハード両面からの安全・安心なまちづくりを進めます。また、気候変動などの状況を踏まえ、環境との共生を意識して、「ゼロカーボンシティすみだ」の実現に向けた取り組みを進めていきます。

【主な取り組み】

- 災害時医療救護活動の体制整備事業　【施策5−2】
- 要配慮者支援事業　【施策7−2】
- 気温上昇に適応するまちづくりの推進　【施策8−2】

- 不燃化促進事業・耐震化促進事業　【施策9−2】
- 鐘ヶ淵地区まちづくり事業　【施策9−2】
- 空き家等対策事業　【施策9−2】

2 誰もが安心して暮らし続けられるまちづくり

支援を必要とする人が気軽に相談できる環境をつくるとともに、関係者が連携して対応していくためのしくみを整備します。あわせて、すべての人が自分にあった形で健康的な生活を送れるよう、主体的な健康づくりを支えるための取り組みを進めるほか、在宅で医療や介護、障害福祉サービス等を受けられる環境づくりや入所施設の整備など、誰もが住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けられるまちづくりを推進します。

【主な取り組み】

- 包括的支援体制整備事業（重層的支援体制整備事業）　【施策4−1】
- 在宅医療・介護連携推進事業　【施策4−2】
- 介護人材確保対策事業　【施策4−2】
- 介護予防普及啓発事業　【施策4−2】
- 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業　【施策4−3】
- 医療連携推進事業　【施策5−2】

3 思いやりと支えあいのコミュニティづくり

多様な主体による協働を支援することで、活動の担い手の確保・育成に取り組むとともに、活発な交流が生まれる公園づくりや新たなスポーツ施設の整備を行うなど、多彩なコミュニティによる持続可能な地域づくりを推進し、地域力の更なる向上を図ります。

また、年齢、性別、障害の有無等に関わらず、外国人も含め、誰もが心地よく過ごしながら、ともに社会の担い手として、穏やかに暮らせる地域社会を実現するため、相手のことを尊重し、一人ひとりの違いを認めあえるまちづくりを進めます。

【主な取り組み】

- （仮称）第二体育館整備事業　【施策3−2】
- 地域福祉活動の支援事業　【施策4−1】
- 老人クラブ運営支援事業　【施策4−2】
- 地域力育成・支援事業　【施策7−1】
- 人権普及啓発事業　【施策7−3】
- まちが輝く公園づくり事業　【施策8−1】

「暮らし続けたい・働き続けたい・訪れたいまち」の実現

“夢”実現プロジェクト3

多彩な魅力が重なりあう、人々を惹きつけるまちをつくります!

未来像

すみだならではの発展を遂げてきた産業や文化が、その魅力を更に高め続けていけるよう、時代の変化に対応しながら、新しい挑戦ができる環境が整っています。既存事業者も新規創業者も、業種を超えた共創に取り組み、また、働く人たち自身も、自分にあった働き方で、能力を発揮しながら充実した生活を送っています。

ものづくり、歴史、伝統、音楽、文化など、すみだの特徴が自然に溶けあうように連携し、新たな魅力となることで、多くの人の心を惹きつけ、さまざまな分野ですみだに関わる人(=関係人口)が増え続けています。多様な交流が広がり、刺激しあいながら、次の挑戦が生まれていく、活力と魅力にあふれたまちになっています。

背景

近代産業の発祥地の一つであり、さまざまな業種が集積する本区においても、近年では事業者数の減少が進み、区内工場数は最盛期の4分の1を下回っています。産業を取り巻く環境が変化するなかで、区内中小企業は構造的な人手不足をはじめ、複合的な課題に直面しており、生産性の向上など働きやすい環境づくりや、このまちで働きたいと感じてもらえる魅力づくりが求められています。

また、多彩な人が集まるまちづくりを進めていくためには、本区の特徴である「ものづくり」を活かした観光と産業を結びつけ、江戸から続く歴史や、すみだトリフォニーホールに象徴される音楽文化なども含め、それぞれの個性を磨き上げながら、相乗効果を生み出す取り組みが必要です。

同時に、区民の生活環境を守りつつ、東京の玄関口として、多くの人々を迎え入れることができる、にぎわいや利便性に富んだ、魅力的な交流拠点づくりを進めていくことが重要になっています。

推進していくプロジェクト

1 誰もが挑戦できる環境づくり

区内産業の持続的な発展に向け、スタートアップ等と区内事業者の共創の推進や異業種間の交流の促進、人材の確保・育成を含む経営の支援、商業の活性化に取り組みます。

また、多様な働き方への支援を行うとともに、年齢、性別、障害の有無等に関わらず、誰もが自分らしく活躍できる環境づくりを進めます。

【主な取り組み】

- すみだビジネスサポートセンター　【施策1−1】
- 人材確保・定着支援事業　【施策1−1】

- ハードウェアスタートアップ拠点構想の推進　【施策1−2】
- 公益社団法人墨田区シルバー人材センター運営支援事業　【施策4−2】
- 障害者就労支援事業　【施策4−3】

2 ものづくり・歴史・文化を活かした誘客のしくみづくり

「ものづくり」の歴史や、江戸から続く文化、区内に点在する美術館や博物館など、すみだならではの多彩な地域資源について、関係団体等と協力しながら、さまざまなテーマに沿って連携させ、積極的な情報発信に取り組むことで、それぞれの特徴を活かした相乗効果を創出し、まち全体の魅力を更に高めていくとともに、そうした区の特色を活かして、会議や学会などのMICE※の誘致に取り組みます。

※ MICEとは会議・セミナー（Meeting）、招待旅行（Incentive tour）、大会・学会・国際会議（ConventionまたはConference）、展示会（Exhibition）の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一形態を指します。

【主な取り組み】

- ものづくりプロモーション推進事業　【施策1−2】
- 観光地域づくり法人（DMO）との連携　【施策2−1】
- 区の魅力発信事業　【施策2−2】
- MICE推進事業　【施策2−2】
- すみだ北斎美術館事業　【施策3−1】
- すみだトリフォニーホール大規模改修事業　【施策3−1】

3 まち歩きが楽しく交流が生まれるまちづくり

交通結節点であり、交流の拠点となる駅周辺のまちづくりの推進を図るほか、高架下空間の活用、快適な歩行者空間の整備や、持続可能な交通ネットワークの構築など、回遊性が高くウォーカブルな環境整備に取り組みます。また、本区の特徴の一つである豊かな水辺を活かしたまちなみの整備など、区内の至るところで「すみだらしさ」にふれることのできるまちづくりを進めます。

【主な取り組み】

- 観光案内所等の運営事業　【施策2−1】
- 江東内部河川憩い空間創出事業　【施策8−1】
- 押上・とうきょうスカイツリー駅周辺整備事業　【施策9−1】
- 錦糸町駅周辺まちづくり事業　【施策9−1】
- 地域公共交通計画推進事業　【施策9−4】

シティプロモーション戦略

地域全体のコミュニケーションを豊かにし、多様な主体が力をあわせ、
共に支えあい、「すみだの夢」を実現していきます!

未来像

すみだの魅力は、「人と人とのつながりの強さ」です。

多様な主体が協働し、話しあい、行動することで、つながりの輪が広がり、人々とまちの活力が高まっています。

さらに、すみだの地域力は向上し、多様な主体と区が一緒にまちの魅力を育む「すみだの夢」の実現に近づいていきます。

シティプロモーションの目的

地域全体のコミュニケーションを活発にし、
持続的に「すみだプライド※」を醸成していくこと

※ すみだプライド=「シビックプライド×スタッフプライド」区民(シビック)と職員(スタッフ)がひとつになり育てていく、地域への愛着と誇りのこと。

墨田区のシティプロモーションは、地域における情報の受発信を活発化させることで、人と人とのつながりの創出や地域におけるコミュニケーションの基盤づくりをめざし取り組んでいます。

また、区民の地域に対する愛着や誇り(シビックプライド)と、職員としての誇りと広報マインド(スタッフプライド)という二つの“誇り”を育み、区民・地域団体・事業者・大学・区などの多様な主体が共に支えあう「共創型シティプロモーション」を推進していきます。

こうした「人」が主役のシティプロモーションによって、「暮らし続けたい・働き続けたい・訪れたいまち」の実現に向けた取り組みを効果的に展開していきます。

取り組みの方向性

1 区民の声や活動を把握し、情報発信の「質と量」を高める

地域を更に深く知り、より積極的につながることで、地域に関わる多様な人の想いや地域で起こるさまざまな活動を把握していくとともに、地域情報の収集・発掘に努めます。

そのうえで、区民目線に立った情報発信の「質と量」の更なる向上をめざし、職員の広報マインドとスタッフプライドの醸成等について、広報広聴の観点から全庁で取り組みます。

2 人と人をつなぎ、まちの魅力の伝えあいの好循環を創出する

持続可能なシティプロモーションの展開をめざして、区に関わる人の「やりたい」、「挑戦したい」という想いを応援していくとともに、主体的に活動ができる環境を整備していきます。

そして、人と人とをつなぎ、まちの魅力の伝えあいの好循環を地域全体へと波及させていくことによって、更なるシビックプライドの醸成を図ります。

3 公民学の連携により新しい魅力を創出する

大学のもつ多様な知見と専門的な分析能力を積極的に活用し、地域課題の解決に向けて、デザインによる行動変容、eスポーツを含むデジタル技術を活用したプロジェクトの推進、ポケットファームによるつながりや生きがいの創出など多様な取り組みを進めるとともに、地域と大学の交流を通じて新たなにぎわいを創出し、大学のあるまちづくりを推進していきます。

さらに、区のさまざまな取り組みに対し、大学、高校等の教育機関の学生や生徒等が参加しやすい環境づくりを行い、若者ならではの視点や発想で課題を発見し、解決できるまちをめざします。



すみだ子どもPR大使



公民学連携講座「笑かつ!CAFÉ」の様子